

# Hello! FUJISEI

No. 165

自らが創業し、成長させてきた会社ならば当然のこと、先代から受け継いだ会社であったとしても、次の代へスムーズに事業承継をしたいと考えるのは当然のことです。

中小企業事業承継円滑化支援事業を適正かつ効果的に行うために、中小企業が直面している事業承継の実態を調査し、よりニーズに応じた支援を検討するための基礎資料とすることを目的に実施された、中小企業基盤整備機構の「事業承継実態調

## 中小企業の事業承継の実態は…

# 親族内承継が8割 経営力発揮で苦勞

査 報告書」(平成23年3月)から中小企業の事業承継の実態を見てみましょう。

経営者の年齢は、「60歳代」が38.0%で最も比率が高く、次いで「50歳代」(27.3%)と続き、平均年齢は58.7歳となっています。

創業した、または企業を引き継いだ年齢は、「30歳代」(29.5%)、「40歳代」(27.5%)がそれぞれ3割近くと高くなっています。創業者の平均年齢は37.6歳で、企業を引き継いだ時の経営者の平均年齢は41.7歳と

なっています。

先代経営者と経営者の関係は、先代経営者からみて「子ども」が64.2%で最も比率が高く、「子ども以外の親族」(14.6%)を合わせた『親族』の割合は8割近くを占めます。

先代から事業を引き継ぐにあたり苦勞した点については、従業員規模、承継時の年齢、世代別にかかわらず、「経営力の発揮」が多く、続いて「金融機関からの借入」「取引先との関係の維持」という結果になっています。

### 事業承継の際に苦勞した点 (複数回答)

中小企業基盤整備機構「事業承継実態調査 報告書」(平成23年3月)

